

人とともに 地域とともに 島根大学

*shimadai



広報しまだい
Shimane University



〔特集1〕

ウィズコロナ時代へ、変わる島根大学

地域からの多大な支援 学生から感謝の声が続々

vol. **45**

shimadai

2020.8

〔特集2〕しまね産学官人材育成コンソーシアム設立

特集1

地域の支援が大学の未来を紡ぐ

ウィズコロナ時代へ、 変わる島根大学

With Corona era × Shimadai

新型コロナウイルスによる感染症は、2020年に入ると
世界各地に広がり、日本国内でも2月以降に感染者が急速に増加しました。
感染拡大に伴い、島根大学では様々な対策を講じてきました。



地域の皆さまへ

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響によって多くの学生が経済的に困窮する事態となりました。この事態に対しまして、900件以上の地域、同窓生、保護者の方々等から支援基金への寄付、お米等の食料品やマスクなどのご提供等多大なご支援を賜りました。心から感謝申し上げます。支援基金からは約550名の学生に数回にわたり支援金を支給できるようになりました。また、食料品等も学生に配布させて頂きました。多くの方々から支えて頂いていることを強く実感しました。学生には皆様のご厚意をしっかりと受け止め、勉学に励むことを期待しています。本学としても、教育、研究、医療、地域貢献につきまして、これまで以上に取組むことで皆様のご厚意に応えたく考えています。ご支援、本当にありがとうございました。

島根大学長 服部 泰直

vol.45 CONTENTS

■留学生・留学体験紹介	13
■島根大学の研究・地域貢献事業紹介	
①人間科学部 宮崎 亮 准教授	15
②医学部 谷戸 正樹 教授	17
③次世代たたら協創センター 荒河 一渡 教授	19

■しまだい便り	21
■しまだい's サークル	24
■島根大学支援基金より	25
■読者プレゼント	25

企画・制作
株式会社メリット
デザイン
有限会社node
タイトルロゴデザイン
松陽印刷所デザイン室 森脇 祥吾

新型コロナウイルス感染拡大に伴う 島根大学の対応について

島根大学では新型コロナウイルスの感染拡大の状況においても、学生や教職員、地域の方々の健康を守りながら、学びの場を提供し、研究を続け、地域貢献を進めていくために様々な対策に取り組んでいます。

コロナ対策本部の設置

島根大学では、感染拡大が懸念され始めた1月下旬から、学生や教職員に対し、感染防止に必要な情報を発信し、注意喚起を促してきました。3月16日には、学長を本部長とする「新型コロナウイルス感染症対策本部」を設置。医師等の専門家も本部長とし、情報収集や全学的に重要な対応の検討や決定を行っています。

この間、卒業式や入学式、各

種フォーラム等のイベントは、中止又は延期せざるを得ず、また、学生市民交流ハウスFLATや総合博物館、附属図書館等の学内施設も、閉鎖や利用制限を行っています。

教育・研究活動等の維持

授業については、学生の修学機会を確保しながら、安全かつ安心して学べる環境の確保を最優先に、前期の授業は、5月7日から開始し、原則すべての授業をオンライン形式で実施しています（詳細はP9）。全授業科目をオンラインで実施していますが、反復して授業を視聴できたり、また、教員への質問が活発になったりする長所を実感しています。一方で、学生同士がコミュニケーションを取る機会が少ないなどの課題も見えてきました。新しい

時代の教育ツールとしてオンライン授業を確立していきます。4月～5月の2か月間、研究活動は実質的に停止していましたが、換気や手洗いの徹底、施設の消毒や健康管理等の感染予防策を徹底し、活動を徐々に再開しています。

新型コロナウイルスの感染拡大は、社会の大きくより急速な変化を起こそうとしています。テレワーク等の働き方やニューノーマルといわれる新しい生活スタイルへの変換、AI、IoTを活用した教育改革等に積極的に取り組み、地域や社会への責任を果たして参ります。そして、希望を持ち続け自らの夢の実現に向かって力強く進む学生をしっかりとサポートし、島根大学の今と未来を守る取り組みを続けていきます。

人とともに 地域とともに 島根大学

*shimadai

広報しまだい
Shimane University

2020.8 vol.45

【特集1】

島根大学のコロナへの取り組み 01

【特集2】

しまね産学官人材育成コンソーシアム 11

新型コロナウイルスと正しく付き合う

現時点ではワクチンや有効な治療薬がなく、季節性インフルエンザに比べて感染力と重症化や死亡のリスクが高いとみられる新型コロナウイルス。テレビやインターネットなどで様々な情報が錯綜する中、改めておさえておきたいポイントを医学部内科学講座（呼吸器・臨床腫瘍学）の磯部威教授にお聞きしました。

医学的に正しい知識をもって
コロナウイルスと
付き合っていきましょう！



島根大学 医学部 内科学講座
（呼吸器・臨床腫瘍学）
磯部 威 教授



YouTubeでも
情報発信中！
こちらから
ご覧いただけます。

Q 「新型コロナウイルス」の 特徴とは？

A 新型コロナウイルスの正式名称は「SARS-CoV-2」、それによる病気のことを「COVID-19」といいます。このウイルスは、ヒトの気道の細胞に感染するので、肺炎を起しやすいです。突然嗅覚や味覚に症状が出るのも特徴です。

ウイルスが付着した微小な粒子が、空气中を漂いながら長時間感染力を維持するため（エアロゾル状態）、換気も重要な予防策として加わりました。ウイルスは、エアロゾル状態で3時間、マスクの外側では7日間も感染性が認められています。通常のウイルスの潜伏期間が3日以内なのに対し、平均5日間、時には2週間程度と非常に長いことも特徴です。

感染経路

ウイルスは
気道分泌物と
糞便から分離される

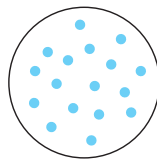
排泄物を触った手が
感染の源になる
＝接触感染

会話、大声、
咳、くしゃみ、
鼻水、痰

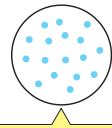
便



飛沫5μm以上



エアロゾル5μm以下
（SARS-CoV-2は0.1μm）



3時間浮遊する

咳：2m

人に感染する侵入口
目、鼻、口



Q コロナ ウイルスへの 対応方法は？

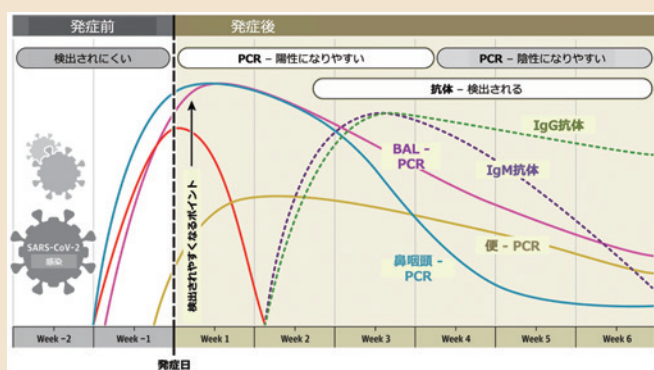
A 感染者の気道内にいるウイルスは、咳やくしゃみをしなくても通常の会話で飛散し、大声を出したり歌ったりすると遠くまで飛びます。この飛沫感染を防ぐためにはマスクが有効です。サージカルマスクも布マスクも効果に差はありませんが、咳などの症状がある場合はサージカルマスクを着用して下さい。夏場のマスクは熱中症の危険もありますので、人口密度の低い島根では、屋外では付けなくても構いません。ただし常に携帯し、集団とすれ違う時や屋内に入る時は速やかに着用しましょう。そして何より手洗いが大切です。





A 3密を避け、屋内でのマスク着用、手指消毒は常に心がけましょう。帰宅後はうがい、手洗いをし、入浴して着替えるようにした方がいいでしょう。店や旅行に出かける時も常に感染予防を念頭に置く必要があります。体調が悪い時は我慢せず、自宅待機しましょう。そのことで収入や仕事が減らないよう、職場や学校などの対応も重要になってきます。オンライン環境づくりも大切です。第2波が来る前にネット環境を整備しておくことは、親や会社の義務です。

Q 望まれる生活様式とは？



発症からの日数とPCR検査、抗体検査、ウイルス分離の陽性率 (doi: 10.1001/jama.2020.8259より)

Q 今後の見通しは？

A 唾液を使ったPCR検査や抗原検査が可能になったことで、検体採取する時のリスクは大きく軽減されました。今後は診断するスピードや場所なども変わってくるかもしれませんが、ただこの検査は、通行手形にはなりません。

ません。発症して1週間から10日以内に検査しなければ陽性率は下がります。症状がない時点での検査は今後の課題の一つです。

島根は、医療施設もドクターも設備も極めて少ないため、重症者が増えると直ちに医療崩壊に陥る可能性があります。そのため島大は県や他の医療機関との連携を強化し、感染してもなるべく軽症や中等症で留まれるよう感染者への十分な対応が取れる体制を整えています。

第2波、第3波は必ず来ます。全国的に人の移動が再開すると感染のリスクも否めません。波が来てから再び対策を取るのではなく、現在の感染予防を継続しましょう。一旦収束したからといって、元に戻るのではありません。世界中が全く新しい思考過程で生活を切り替えていく必要があります。

高齢者や慢性疾患を持つ人は重症化しやすいので、特に注意してください。ただし、外出を控えるあまり、うつやフレイル(虚弱)状態にならないよう地域でもケアしていく必要があります。

磯部教授からのメッセージ

みんなが見えない敵の被害者。差別はやめて

今は新しい生活様式を考える時期です。元に戻るのではないということを理解してください。小さな子供から高齢者まで最も重要なことは、セルフモニタリング—自分の健康状態をきちんと把握し、報告すること—です。常に感染予防を意識して生活を見直しましょう。

そして感染した人を犯罪者のように扱うことはやめてください。誹謗中傷は絶対にしないでください。みんな見えない敵の被害者です。感染した人を地域で守るという考えを持ってください。これが新型コロナウイルスと戦っていく上で一番大事なことです。

地域の方々から困窮する学生へ

広がりをもせた学生支援の輪



新型コロナウイルスの影響でバイトなどができずに生活に困窮する学生に対して、様々な方から寄せられた物資、支援基金を通じた資金等の提供が数多く寄せられています。

教職員有志の取り組みが支援の大きな輪を生む

新型コロナウイルスによる感染症の拡大を受けて、アルバイト収入が減って、家計が苦しくなってきた島根大学の学生のために、地域の方々から様々な支援をいただいています。なかでも、食料品を始めとする生活必需品の寄贈による支援の輪が広がっています。

4月27日(月)には、教職員の有志が発起人となり、教職員からお米を集め、学生に配布する試みが始まりました。30日(木)



には教職員以外に学生や学生宛のメールを見た保護者の方からも寄贈いただき、600kg以上のお米のほか、缶詰やレトルトカレー、インスタントラーメンなどたくさん食料が集まりました。5月1日(金)の配布では、100名を超える学生が集まり、配布開始から1時間からずいぶんお米がなくなりました。お米

を配布した学生からは、感謝の声をたくさんもらいました。発起人代表の人間科学部の西崎教授は、「教職員以外の方からたくさんのご寄贈をいただきました。皆様のご厚意に感謝いたします。」と述べていました。

この取り組みはさらに広がりを見せます。5月15日(金)には第2弾を実施。教職員のみならず、報道やHPでこの取り組みを知った多くの企業や団体、地域の方からお米2t以上、レトルト食品、飲料水や野菜など、多くの支援物資が集まり、300名以上の学生に配布することができました。これ以降も様々な物資が寄贈され「報道等で困窮している学生がいると



聞いており、可能な限り支援したい」「希望を持って勉学に勤しんでほしい」等の励ましの言葉もたくさんいただき、物心ともに学生にとって心強い支援となっています。

学業継続の力に 学生への支援基金

生活必需品等の物資に関する支援に加え、生活が困窮し、学業を継続することが困難な学生に対しての様々な経済的支援も行っています。

まず、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、学生本人及び保護者の収入が減少し、大学生活の維持が困難になっている学生に対して、授業料の納入期限を8月末まで延

新型コロナウイルス感染症に係る
緊急学生一時金

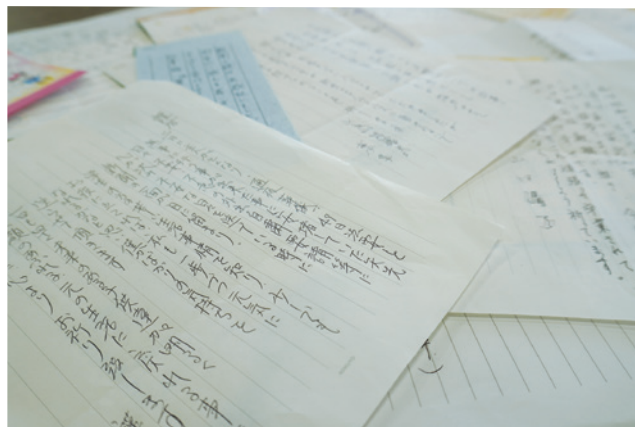
903 件 37,384 千円

(令和2年6月30日現在)

長する措置をとりました。

また、「新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急学生一時金」を創設。アルバイトなどの収入が激減して、生活が困っている学生のために、生活困窮の状況を確認の上、3万円の一時金を給付しています。これまでに、546名の学生に給付を行っており、今後も8月まで(合計4回)支給する予定です。

この一時金の創設にあたっては、寄附目標を3000万円と



して、企業・団体・一般の皆様幅広く募金のご協力をお願いしました。4月下旬には、大学公式ホームページや公式SNSで幅広く呼び掛けたほか、山陰中央新報等の地元メディアにも学生の困窮状況や支援を呼びかける情報を掲載いただいた結果、寄附の募集締め切りである6月30日時点で、3700万円を超える多くのご寄附を頂いています。

今後も島根大学では、学生が誰一人として経済的な理由により、学業の継続をあきらめることのないよう、様々な施策を行っていきます。地域、関係者の皆様にも変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

学生への
激励メッセージ
一覧はこちら



3

支援への感謝をメッセージボードへ 学生からの感謝の声

お米・食料品や、緊急学生一時金など、支援を受けた学生から、続々と感謝の声が寄せられています。寄せられた感謝の声を紹介します。



02 たくさんのご支援 ありがとうございました。 感謝しながら、 大切に食べさせていただきます。 日本人学生	01 Thank you for your support. 留学生	お米、食料品等 受給学生から のお礼
05 感謝の気持ちで いっぱいです!! ありがとうございます。 日本人学生	04 支援してもらえて とてもうれしいです。 家族と離れていて不安な中 とても心強いです。 日本人学生	03 ありがとうございます。 いつか何かの形で お返しできればと思います。 日本人学生
08 バイトもできず収入が ないのでほんとうに 助かります。 ありがとうございます。 日本人学生	07 1人暮らしなので とても助かりました! ありがとうございます。 日本人学生	06 Thank you for your donation. 留学生
11 バイトもできなく 困っていたのでとても 助かりました。 私たち学生のために ありがとうございます。 日本人学生	10 皆様のご厚意 本当にありがとうございます。 食費に困っていたので ほんとうに助かります。 美味しく頂きます。 日本人学生	09 たくさんの支援 ありがとうございます。 本当に助かります。 勉強などがんばっていきます! 日本人学生

02

コロナ19の影響でバイトもできない状況に経済的な負担を感じていました。今は支援して下さった給付金と食料のおかげで、経済的な状況がとてもよくなりました。応援して下さった卒業生、保護者、企業、地域の皆様に心より感謝しております。

留学生

01

卒業生、保護者、企業、地域の皆様、この度は多額の御寄付金本当にありがとうございました。おかげさまで生活費をまかなうことができ、精神的に安定しました。僕は将来島根県で働きたいと思っています。少しでも社会に還元できるよう勉学に励んでいきます。

日本人学生

緊急学生
一時金受給学生
からのお礼

この他にも多くの感謝の聲が寄せられています。



05

コロナウィルスの流行により、アルバイトが出来なくなり、生活費を稼ぐこともできず、どうなるのだろうと不安でした。一時金を給付できたため、生活にも少し余裕ができ、安心しました。多額の寄付金ありがとうございました。感謝を忘れず、勉学に励みたいと思います。

日本人学生

04

温かいご支援をいただきこの苦しい状況をなんとか乗り越えていくことができそうです。そして何より学びを応援して下さる方がいらっしゃるということが分かり、学びに対する気持ちが高まりました。今後より一層勉学に励んで参ります。ありがとうございました。

日本人学生

03

一時金の給付は、非常に多くの方のご好意により実現したことであり、皆さまの支えがあって私たちが学業に励むことができていたことを再確認しました。このご恩を忘れることなく学業に励み、将来、私も困っている人々を助けられるような人になりたいと思いました。

日本人学生

08

この度給付金を頂いた者です。コロナの影響でアルバイト先が休業し、両親から仕送りも貰えずどうしようかと思っていました。給付金を頂いたおかげで、生活が以前とほとんど変わらず過ごしています。皆さまの暖かい御寄付のおかげです。ありがとうございました。

日本人学生

07

この度は皆様も苦しい中、支援していただき本当にありがとうございました。大切に使用させていただきます。この感謝の気持ちを忘れず、これからも勉学や地域活動を行なっていきたいと思います。

日本人学生

06

親からの仕送りも無くなり、バイト先も休業となり苦しい生活をしている中でこのような形で支援して頂き本当に助かりました。今回お世話になった方々にはいつかどのような形かはわかりませんが恩返ししていきたいなと思います。本当にありがとうございました。

日本人学生

11

島根大学の卒業生、保護者、企業、地域の皆様この度は緊急一時金のお力添え有り難うございました。皆様のご支援により、私たちは大学生活を何とか続けることができています。今後は、より一層勉学に励みよりよい大学生活を送って行きたいと思います。

日本人学生

10

一時金の支給ありがとうございます。コロナで批判が飛び回っている中、久しぶりに人の温かみに触れることができました。本当に感謝しています。ありがとうございました。

日本人学生

09

今回、バイトも十分に出来ず、親の仕事も厳しい状況下であり、給付金をいただけたことがすごく助かりました。ありがとうございます。このことでますます勉学の方をしっかりと頑張らなくてはと気も引き締まりました。ほんとうにありがとうございました。

日本人学生

\\ オンライン授業とは？ //

前期期間はオンライン授業へ切り替え

コロナを機に、変化する学びのカタチ

3種類の授業形式



教師・他の学生と
同時双方向に学ぶ

②同期型オンライン授業



学生が好きな時に学ぶ

①オンデマンド授業

③両方を併用する授業

5月7日より、オンラインによる授業がスタートしました。学生は原則として自宅で学修を行っていますが、自宅の通信環境や必要な機材が準備できない学生には、感染予防対策を行った上で一部教室を開放しています。

3つの授業方式で 学びの質を維持する

オンライン授業には大きく分けて、WEB会議システム（Zoom等）を用いて映像や音声データを送受信し、双方向のコミュニケーションが可能な「同期型オンライン授業」と、学生が都合の良い時間帯にインターネット上の資料や画像、音声、動画等の教材を見ながら学ぶ「オンデマンド型授業」があり、これらのどちらか、または両者を組み合わせで行われています。



授業ごとに受講者数や授業形態が異なる中、今後の新たな教育ツールとなるオンライン授業の良さを生かすため、各教員が工夫をし、よりよい学びとなる授業を提供しています。オンラインのメリットを活かした新しい取り組みや、学生との授業に関するコミュニケーションツールにチャット機能を用いるなど、大学の学びにも新しい風が吹いています。

\\ オンラインを活用した特色ある授業 //

建築設計製図III 履修者26名



実践的な課題に挑戦

総合理工学部建築デザイン学科3・4年生が受講する専門教育科目です。数年後に建て替えが決定している「出雲市平田行政センター」について、複合施設の計画をしました。優秀図面4点は、現地関係者へ提出済です。

草案のチェック

いつもは製図室で決まった時間に草案をチェックしていましたが、今回はオンラインで1対1の草案チェックやチャット機能を使って随時相談できるようにしました。

オンライン上での図面の修正

いつもは学生の図面に手書きで書き込みますが、今回はサインペンでスケッチした用紙をPCカメラで見せたり、カメラで撮影して、ファイル送付したりして指導を行いました。

評価コメントを送付

課題の発表講評会を実施せず、教員それぞれが評価コメントを作成して学生にメールで送付しました。学生にとっては、評価コメントが文章として手元に渡ったのは初めてのことで、今後の学びの奮発材料になってくれることを期待しています。

VOICE



総合理工学部
建築デザイン学科 3年

平川 真衣さん

建築図面や3Dモデルなどを画面で共有しながら説明できる点が普段の授業よりやりやすかったです。また、先生からのアドバイスや考えをスケッチなどの手書きで見ることができたと思います。

スタートアップセミナー 履修者291名



地域の語り手に魅力を聞く

初年次教育科目で、新入生約300名が地域を題材としたプロジェクト型学修を行う大規模授業です。例年のフィールドワークに替えて、多数の地域の方をゲストにオンライントーク会を実施し、対話的学びを促しました。

オンラインの学びに慣れる

初期の頃は、適宜アナログ作業を入れ、デジタル空間から切り離すことで、リフレッシュ・内省の時間を取り入れました。

教員陣のより丁寧なサポート

教員7名を、これまでのようなクラス別担任制(教員1名が学生40名程度を担当)にせず、全体ファシリテーターとサポーターという組織構成にすることで、グループ活動への支援を丁寧に行えるようにしました。

学内外からひとつの場に集う

「地域トーク」は、新入生が島根での生活や大学での学びに期待感を持ち、島根県への愛着につながる取り組みができないかと検討し、実施したものです。オンラインだからこそ、多数の学外者の授業参画が実現しました。

VOICE



医学部医学科 1年

北村 春樹さん

対面でないグループ活動に、当初は不安もありました。しかし、先生方のサポートにより、オンライン上でも充実した活動を行えています。この状況下のスタセミだからこそできる学びを、より一層深めていきたいです。

大学、高専、自治体、地元企業が協働教育体制を強化

しまね産学官人材育成コンソーシアム設立



しまね産学官人材育成コンソーシアムは、5年間取り組んできたオールしまねCOC+事業(文部科学省による「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」)が令和元年度をもって終了したことに伴い、地域で支え、地域で活躍する若者の人材育成と県内定着を目的とした取組を継続的に実施するために設立されました。本コンソーシアムでは、これからの島根を創る若者を育て、地元で定着し地域社会を担う人材の輩出を目指していきます。

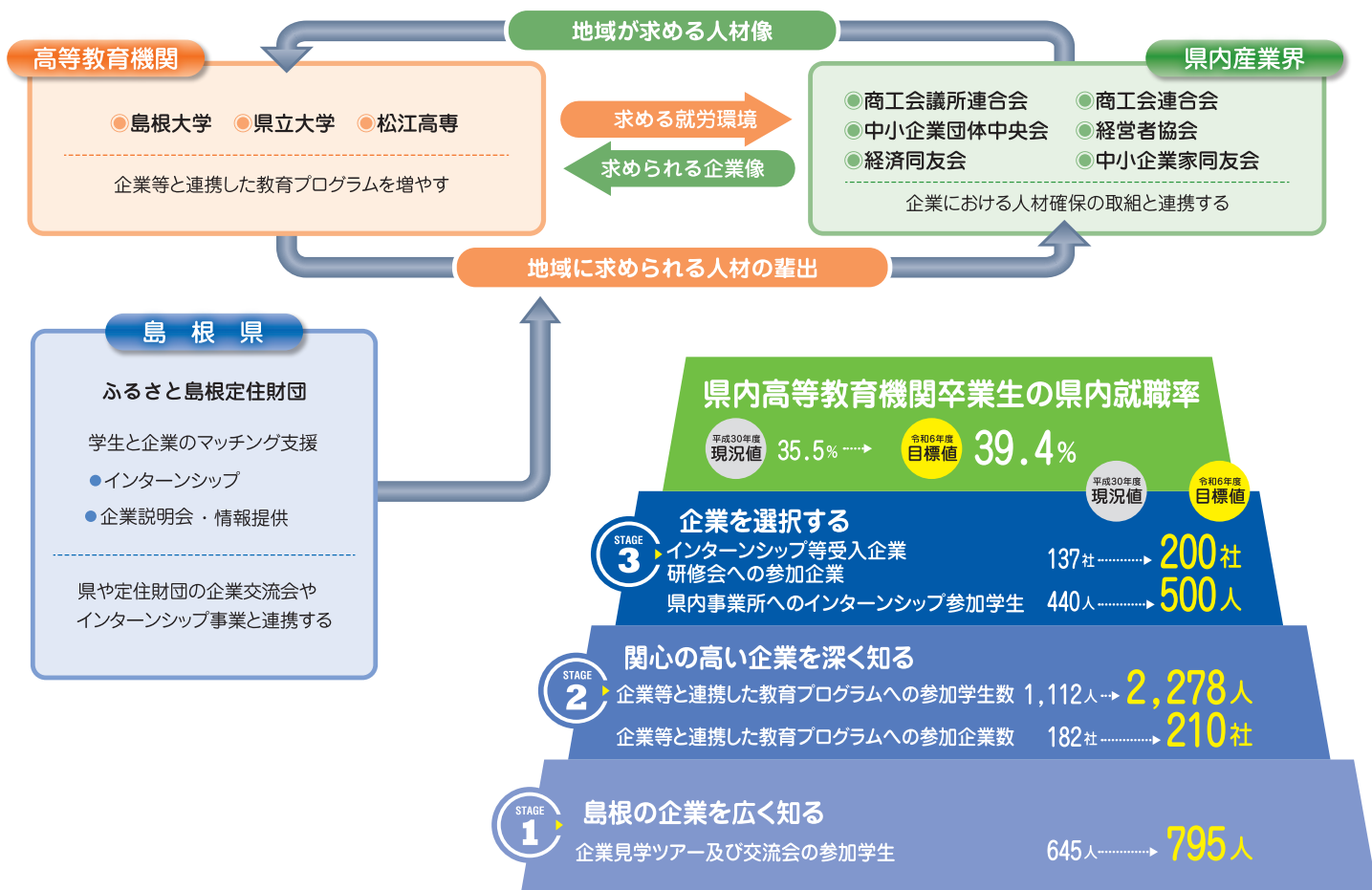
**協定締結でより強固に
フラットかつ緊密な連携で
人材育成に取り組み**

3月26日(木)、島根大学や島根県、県内経済団体等の11団体が参画する「しまね産学官人材育成コンソーシアム」の協定締結式

が開催されました。協定締結式では、丸山知事と服部学長、田部会頭の挨拶があり、産学官が一体となつて若者の地元就職を進めていくことを確認しました。服部学長からは「若者の地元定着を実現するため、産学官が持つそれぞれの力を結集して地元で定着する若者を増加させる」と決意が述べられました。協定締結後、第1回運営協議会が行われ、本コンソーシアムの規約や役員を選出、令和2年度の事業計画が承認されました。コンソーシアムの共同代表として丸山知事と服部学長が就任し、運営を行っていくことになりました。

**COC+事業を発展させ
人材育成にかか
多様な取り組みを充実**

5年間にわたるオールしまねCOC+事業では、県内高等教育



機関と地域の企業等が連携した教育プログラムを増加させ、しまね大交流会をはじめとし、学生が地元企業を知る機会の拡大につなげることができました。また、県内事業所へのインターンシップ参加学生が増加するなど、高等教育機関と産業界の連携も進みました。

一方、地元企業を知る機会が単発的であり、実際に企業を選択する行動に結びついていないことが課題として挙げられました。

そこで、これらの課題に対応するため、しまね産学官人材育成コンソーシアムでは4年間の在学期間を見通した取組を行います。各参加団体の協働により、3つのステージ（①島根の企業を広く知る、②関心の高い企業を深く知る、③企業を選択する）を設け、県内企業をめぐるバスツアーや協働プロジェクト型の教育プログラム開発、魅力あるインターンシップの実施などを通して、学生が地元企業を知る機会から就職までの切れ目のない支援を行うことにより地元就職へつなげていくとしています。



また、県内出身学生の増加を図るため、島根大学では令和3年度入試から「へるん入試」を行い、県内の幅広い高校生に入学していただく取り組みを行います。また、島根県教育委員会との連携による高大連携も推進します。

大学、高専、県、企業等が一体となつて、地域で活躍したい若者の支援をすることにより、今後5年間で人材育成と県内定着を加速します。

国境をこえてチャレンジする学生たち

留学生・留学体験紹介

Shimane ∞ World

現在島根大学では、世界28か国・地域、102の大学・機関と交流協定を結んでいます。毎年、多くの島大生が海外へ留学し、多くの留学生が海を渡ってやってきます。留学経験のある学生に、留学体験について伺いました。

FROM



出身国

フランス (ジャン・ムーラン・リヨン第3大学)

モネ・オード

MONNET AUDE さん

(法文学部 特別聴講学生)



留学でいろんな変化を実感
自信を持てることが増えた！

日本に来る前はずっと同じ町に住んでいた
ので、新しい生活をしてみたい、冒険して
みたい、そんな想いから留学しました。初め
の一人暮らしで、自分で全部やらないとい
けなくなつたので、生活面でできることが
とても増えました。フランスにいた頃は恥ず
かしがり屋で、あまり積極的に話せなかつた
のですが、日本に来て、完璧ではない日本
語でも一生懸命話すと相手もそれに応えて
くれることが分かり、会話にも自信が持て
るようになりました。私は音楽が好きなの
で、10月に松江の鼈行列を見に行つたの
ですが、その帰りに太鼓チームに誘われて、
実際に太鼓を体験できたのはとても良い
思い出です。将来は日本語を使える仕事に
就きたいと考えていて、チャンスがあれば日
本で働くことも視野に入れています。



1. 10月に韓国からの留学生
と松江鼈行列を見に行った
際の一枚。
2. 桜の季節には、大学の周辺
の公園にみんなで花見にも
行きました。

TO



留学先
ドイツ
(トリア大学)



なんぼう のぶ
南方 野歩 さん
(人間科学部 人間科学科 3年)



1.帰国の前々日、仲が良かったドイツ人の友達宅でのバイバイパーティーの様子。2.お気に入りのカフェにて。ドイツでは日曜はスーパーも含めほとんどの施設が休みのため、開いているカフェに友人と出かけて勉強していました。



現地学生とのタンデム※で 新しい価値観に触れる

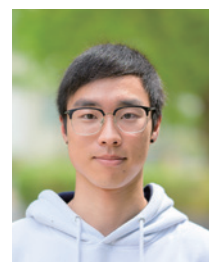
専攻している心理学の基礎になる理論の多くがドイツ語圏で提唱されており、本場で学びたいとの想いから、半年間の留学に挑戦しました。現地では日本語に興味がある学生と積極的にタンデムを行い、授業外でもドイツ語を学ぶ機会が多く得られました。また、異なる文化を持つ学生との交流で、新しい価値観にも触れました。ドイツでは個性が尊重される代わりに、個人を評価するため自己主張が必要になるような場面が多々あります。日本であれば理解されず孤立しかねない行動も、それをあくまで個人の選択として尊重する姿勢が多く見られたことも新鮮でした。今回は言語の壁もあり、専門の学びを深めることができなかったため、英語やドイツ語への理解を深め、もう一度留学したいです。

※タンデム…お互いの母国語や文化を自主的に教え合うもの

FROM



出身国
韓国
(国立釜慶大学校)



キム・ユンス
KIM YUNSU さん
(法学部 科目等履修生)



1. 12月に先生や学生とともに松江城のすす払いに参加。松江市民の参加もあり、大人も子どもも地元の文化財を大切にする姿に感動しました。2. 日本の文化について学ぶ授業で、他国からの留学生とともに、先生の家で着物の着付けを体験しました。



違いを受け入れることで より良い人間関係を築く

教室やネットで学んだ日本語や文化を、直接自分の目で見て体感することは、自分にとってかけがえない宝になると信じて、日本への留学を決めました。運動が好きで、日本語で話すことも好きだったので、バドミントンや卓球、テニスなど複数のサークルに入り、日本人学生と楽しく運動しました。留学前より日本語が上達したのはもちろん、住民登録や通帳開設、携帯契約、自炊など、生活面での自立性を伸ばすこともできました。また、他国の留学生との交流から、多様な価値観があることにも気づきました。勉強も大事ですが、一番大事なのは人との付き合い合いだと思います。育った環境や考え方、価値観がそれぞれ違う中で、その違いを理解して受け入れることで、より良い人間関係を築いていけると実感しました。

健康な時から健康づくり ヘルスプロモーションで 高齢者の活力アップ狙う

運動や地域交流で
フレイルリスクを減少

フレイルという言葉をご存知でしょうか。加齢によって筋力が衰え、疲れやすくなつて家に閉じこもりがちになるなど、年齢を重ねることで生じやすい衰え全般を指しています。しかし適切な予防や支援を行うことで、要介護状態になることを予防できるため、健康寿命を延ばすキーワードとして近年関心を集めています。宮崎准教授は、楽しんで行う運動が心身の健康に効果的なことに着目、地域の高齢者の健康増進を図るため、さまざまな研究や提言を行っています。「重要視しているのは、健康な時から健康づくりの環境作りを支援する〇次予防。介護状態

年を重ねると、筋肉や認知機能などが衰えると共に、社会とのつながりも少なくなり、心身ともに手助けが必要になってきます。人間科学部の宮崎准教授は、軽い運動を通して地域の高齢者の健康増進を図り、身体機能の低下や社会的な衰えを予防していくことに注力しています。



PROFILE

人間科学部 人間科学科
宮崎 亮 准教授
みやざき りょう

研究に協力して下さる高齢者の方々は皆、人生の大先輩なので学ぶことだらけです。当初は「被検者」と「研究者」だったはずが、いつの間にか提案や意見を頂いたりして(笑)。ラボが再開できたら、学食でのランチ会なども企画したいですね。きっと盛り上がりますよ。



1.しまだいシニアラボ開設に向けた説明会で、参加者に説明を行う宮崎准教授。2・3.令和2年3月に津和野町のじげおこしプロジェクトの一環で実施した健康調査の様子。学生10名も参加し、住民の体力測定などを手伝った。4.隠岐の島町での健康づくり講演会の様子。

にならないように予防することは大事ですが、自分の意思で長く続けるのは大変。生活の中で自然に運動する環境が大切なのです」。

地域の高齢者が元気で暮らすことは、年々増大する医療費や社会保障費の抑制にもつながります。宮崎准教授は「75歳以上になると病気になる人が増え、医療費もぐんと上がります。健康なうちに病気になるリスクをしっかりと下げることとは、個人の健康増進に加え、国や自治体の財政も健全にするのです」と強調します。

その一貫として、大学の地域ジョイント事業「じげおこしプロジェクト」において、津和野町の高齢者の健康調査に協力するなど、住民主体の健康づくり体制も支援しています。

高齢者の運動習慣支援 しまだいシニアラボ

今春には、松江キャンパス周辺地域を対象に、〇次予防の二環として高齢者の運動習慣を支援する「しまだいシニアラボ」を、総合理工学部や教育学部の教員と協力して開設しました。軽い運動を楽しむ定例会や身

体機能を測定する測定会を定期的に開催し、家に閉じこもりがちな高齢者に体を動かす楽しさを実感してもらおうと共に、その効果をデータ蓄積し、健康科学の発展研究に生かすのが狙いです。「ジムで行うような激しい運動でなく、短時間身体を動かすだけでも、糖尿病などに患するリスクが下がることは医学的にも明らかです」。ラボには学生も関わっており、参加者同士に加え、若者との自然なコミュニケーションも高齢者の活力アップにつながるのでは、と期待されています。

ラボには平均年齢72歳の高齢者25人が参加。しかし新型コロナウイルスの影響などで定例会の開催は延期され、現在は非対面での健康チェックや睡眠測定などを通して参加者のモチベーションアップに努めています。感染予防のため、高齢者が外に出にくい状況が全国的に続く中、宮崎准教授は「わずかな感染リスクを恐れて自宅に閉じこもっていると心身共に衰えてしまいます。特に高齢者は一度衰えると元に戻るのが困難。リスクがないところで運動を続けてほしい」と訴えます。将来的には、企業の協力も求めるなどして、健康に気を配れる環境づくりを一層推し進めていく考えです。

患者に応じた治療で 緑内障の症状緩和 独自の器具や装置も開発

眼圧を下げることで
視神経の圧迫防ぐ

緑内障とは、目と脳をつなぐ視神経が徐々に萎縮する病気で、最終的には失明に至る可能性もあります。加齢や近視、眼圧の高さなどが要因ですが、現在の医学では一度ダメージを受けた視神経を再生する方法はなく、病気の進行を遅らせることが唯一の治療法です。「若返りの薬がなく、近視を治す方法もない今、加齢や近視が要因の患者さんにも眼圧を下げる治療を行っているのが現状です」と谷戸教授。「眼圧の正常値は人によって異なります。病気の要因や視神経の状態を見極めて目標眼圧を決め、治療することが大切なのです」と続けます。



PROFILE

医学部 眼科学講座
谷戸 正樹 教授
たにと まさき

私が開発した器具「トラベクトミーマイクロフック」は、国内で緑内障治療を行うほぼすべての施設に導入して頂いていて、現場では器具を「タニト」と呼んでいるようです。普及を狙ってあえて特許は取りませんでした。現在はアジアや欧米でも製品化が進められています。

日本における失明原因の第1位を占める「緑内障」。その発症要因の多くは加齢や近視などで、誰にでも起こり得る病と言っても過言ではありません。医学部眼科学講座の谷戸正樹教授は、国内でも先駆的に最新治療に取り組んできたほか、オリジナルの術式や器具の開発にも挑んできました。



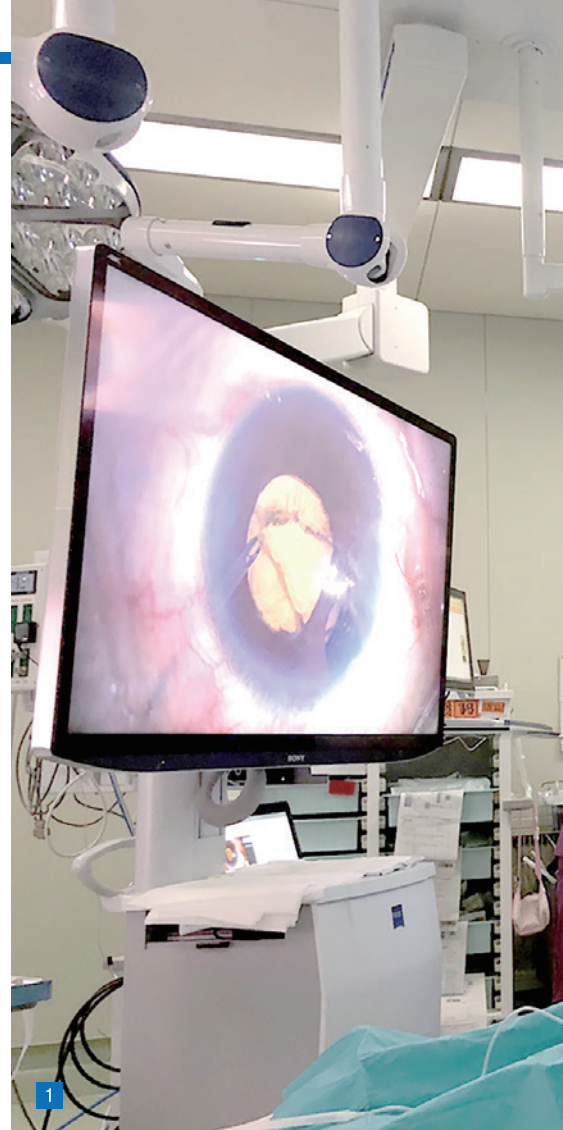
2



谷戸氏ab internot
ラベクトミーマイクロ
フックの手術動画がご
覧いただけます。



3



1

1.本学医学部附属病院が日本初の導入となったデジタル3D顕微鏡 (ARTEVO 800) を使い、手術を行う谷戸教授。 2.新規の低侵襲緑内障手術に用いる専用器具「谷戸氏ab internotラベクトミーマイクロフック」。3. マイクロフックラベクトミーでは、1ミリ未満の切開創から緑内障手術を行うことができる。

眼圧とは何でしょうか。眼球内には、角膜や水晶体の栄養補給の役割も果たす「房水」と呼ばれる体液が流れています。この房水が作られる量と、眼内から流れ出る量のバランスで決まる圧力が眼圧なのです。眼圧が高くなることで視神経が圧迫されてしまうため、視野が狭くなったり、最悪の場合は失明に至ったりします。そこで、眼圧を下げる治療が緑内障の症状緩和には欠かせないものになってきます。

効果的な術具を開発 新治療法にも挑む

谷戸教授は京都大学ウイルス研究所で基礎研究をしていた約20年前、緑内障治療の第一人者が院長を務める病院にも勤務。同院で先進的に行われていた術式「トラベクトミー」の治療実績をまとめ、眼球内でフィルターの役割を持つ箇所を切開して目詰まりを解消し、房水を流出させる手術が白内障との合併患者や高齢者に効果が高いことを確認しました。

専用のインプラントを眼内に挿

入し、房水を排出させて眼圧を下げる「チューブシャント手術」も国内でいち早く導入。難治性の患者に効果がある一方、当時合併症の多さが課題の術式でしたが、研鑽と実績を積み重ねることで治療の精度を上げ、2012年には保険適用になりました。「従来の緑内障治療は選択肢が限られ、思うような効果が出なくても繰り返し行わざるを得ないのが実情でした。症状に合わせてバランスの良い治療を選択し、安全で適切な施術を広めていくことが最も重要なのです」。谷戸教授は2015年、経験が浅い医師でも確実にトラベクトミー手術を行える新しい手術器具も開発。動画投稿サイト「ユーチューブ」で術式を世界中に公開しています。

そして今、谷戸教授が挑んでいるのが、房水を排出できない患者への新しい治療法です。目の中に内視鏡を入れ、房水を生成している毛様体をレーザーで凝固させることで房水産生を抑制して眼圧を下げるのです。谷戸教授はこの手術に使う装置を開発、臨床研究を重ねてきました。「間もなく医療機器として承認される見込みです。今まで救えなかった患者さんの力になれば」。

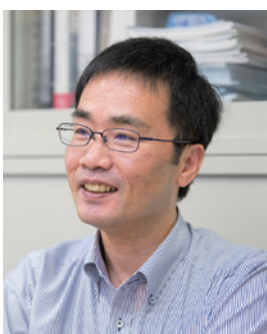
透過電子顕微鏡を使って 原子配列の乱れを観測 高機能材料の開発狙う

規則性の乱れが
新たな性質を生む

金属や半導体などの材料の多くは、原子が規則的に配列した結晶です。しかし材料の端から端まで規則的に並んでいるわけではなく、規則性の乱れた場所も必ず存在します（結晶格子欠陥）。荒河教授が原子をパチンコ玉に置き換えて説明してくれました。「いくつかのパチンコの玉が縦横規則的に並んでいる様子を想像してください。玉が抜けていたり、玉と玉との間にもう一つ玉があつたりするような場所があります。このような状態を原子配列の乱れ、もしくは欠陥と表現します」。

欠陥は、物質の性質を損ねてし

固体物質の多くは、原子が規則正しく配列した状態で存在しています。しかしこの配列が乱れることで、物質の様々な性質が大きく変わり得ることが分かっています。次世代たたら協創センターの荒河一渡教授は、金属における原子配列の乱れを研究し、高機能材料の開発などを目指しています。



PROFILE

次世代たたら協創センター

荒河 一渡 副センター長／教授

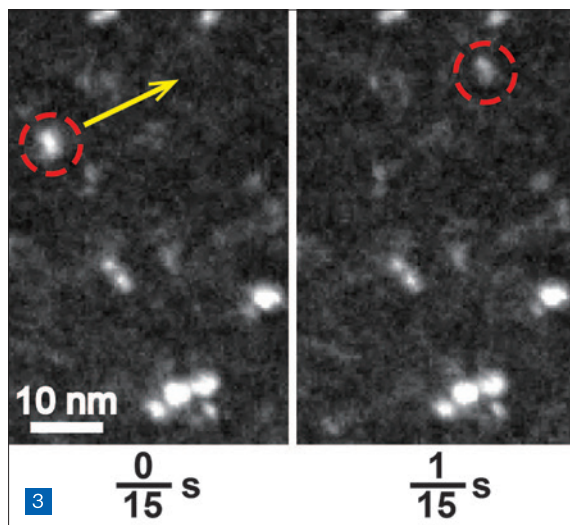
あらかわ

かずと

「夢のエネルギー源」とも言われていた核融合の研究者になりたくて、大学に進みました。膨大なエネルギーを無尽蔵かつクリーンに生み出せるところにひかれたんですね。恩師との出会いを機に、核融合だけでなく様々な分野で生かされる材料の基礎研究に転じました。



1. 世界的にも珍しいイオン照射装置直結型電子顕微鏡を操作する荒河教授。2. 次世代たたら協創センター・センター長・Reed 教授（オックスフォード大学教授）と本学大学院生、教職員。3. タングステンにおける低温での欠陥の動きを直接捉えた透過電子顕微鏡写真。黒い背景に対する白い粒状コントラストは、欠陥の像。「10 nm」は、1億分の1メートル。(Nature Materials 19 (2020) 508.)



まう場合もありますが、新しい可能性を生み出すケースも少なくありません。「そもそも欠陥があるからこそ、金属材料を変形することが出来ます。欠陥は、非常に重要なのです」。荒河教授が副センター長を務める次世代たたら協創センターでは、非常に強い力や高い温度にも耐えうる航空機エンジンの超耐熱合金などを研究していますが、このような極限環境材料では「欠陥」を制御する必要があります。「材料の変形の『素』である欠陥を制御することで逆に強い材料を生み出すことも出来ます」。高エネルギーにさらされる原子炉・核融合炉材料や火力発電所用ボイラーなどでも同様です。

低温で動く金属原子を 世界で初めて実証

荒河教授の研究に欠かせないのが、試料を原子レベルで見ることが出来る透過電子顕微鏡です。「ナノメートルの大きさで点に見えている欠陥をありのままに見ることが出来ます。しかし見たいものを見るためには研究者の

腕が試されます」。この透過電子顕微鏡を駆使して今年1月、金属中の欠陥が「量子拡散」と呼ばれる不思議な動きをすることを世界で初めて観測。この成果はネイチャーマテリアلز誌に掲載されるとともに、国内外のメディアで紹介されました。「従来、金属中の原子の動きは、温度が低くなると急激に鈍くなり、マイナス200度以下のような低温では原子の動きは凍結されるとされてきました。これに対してこの研究では、そのような低温でも『量子拡散』によって原子の動きが凍結されないことを明らかにしました。これは1世紀にわたる金属学の常識を打ち破るものです」。低温での欠陥の動きを制御することによって、新たな性質の金属材料を生み出せる可能性も出てきたのです。

荒河教授は、金属素材メーカーや材料試験メーカーなどの県内企業との共同研究にも力を入れています。「島根には特殊鋼技術に秀でた企業が多くあります。一方学内には金属工学に必要な布陣がそろっています。官民学が協力して取り組むことで、世界的にも評価の高い仕事ができるはずです」。

しまだい便り

大学の
旬な情報を
お届け島根大学が学内外問わず行っている多彩な活動の中から
大学の今がわかる選りすぐりの情報をお伝えします。

TOPICS

1

第4弾、第5弾のチャレンジ成功！
島根大学のクラウドファンディング

島根大学では寄附金の新しい形として2018年度より「クラウドファンディング」を始めています。今回、第4弾、第5弾のチャレンジに成功しました。第4弾は、総合理工学部・小林久高准教授のプロジェクトで、美保関町の空き家となつている古民家を地域活性化の拠点にするため、島大生が主体となって改修を行う活動費を募集しました。49名から70万を超える支援をいただきました。第5弾は、医学部・渡部広明教授のプロジェクトで、不慮の事故で命を失う患者を一人でも多く救済できるように、1年間の「治療法や医療体制の研究」を行う費用を募集しました。188名から560万円を超える支援をいただきました。皆さまの温かいご支援に厚くお礼を申し上げます。

TOPICS

3

教育学部音楽科教育専攻の学生・教員有志がジョイント
リモート演奏の動画を作成

島根大学教育学部音楽科教育専攻の学生・教員有志が、島根大学愛唱歌「すがしき風」を遠隔で歌唱・演奏し、ジョイント動画を作成しました。完成した動画は、「コロナで厳しい状況にあります。が、学生、教員、職員皆で力を合わせてこの難局を乗り越えましょう。」というメッセージとともに、島根大学公式YouTubeチャンネルにて公開し、再生回数は5000回を超えています。

島根大学愛唱歌「すがしき風」リモート演奏は、QRコードからご覧いただけます。



TOPICS

2

授業の一環でビジネスプランを作成・コンテストへ応募
「キャンパスベンチャーグランプリ中国」で奨励賞

法文学部4年の胡（えびす）純奈さんの作成した「マイワンピースプロジェクト」が、日刊工業新聞社主催のキャンパスベンチャーグランプリ中国で奨励賞を受賞しました。自分が着る服において、「好きなブランドの服」と「結局買う服」の間にはギャップがあり、両者の中間にある「ちょうどよい服」に着目しました。これを作るために「依頼者」と「製作者」をマッチングさせることで収益を上げるモデルを考案しました。



TOPICS

4

総合理工学部・生物資源科学部の研究を体験 松江東高校1年生が研究室を訪問

2月13日(木)、高大連携事業のひとつとして、島根県立松江東高校の1年生全員181名が総合理工学部(7研究室)、生物資源科学部(10研究室、本庄総合農場を含む)を訪問しました。両学部でどのような研究が行われているのか高校生に体験してもらい、学生との交流を深めることを目的に計画されました。

当日は自転車や徒歩で島根大学の両学部棟に集合した後、3、20名に分かれて、各研究室での取り組みに参加しました。高校生の事後のアンケートから、「参加して満足」という声が多く、普段見ることができない大学研究室への訪問は、内容は少し難しかったようですが、貴重な体験をしてもらったようです。今後の要望として「もっとと大学生との交流をしたかった」、「文系の学部も訪問したい」ということも書かれていました。

大学としても初めての試みであり、実施時期など多くの課題がありました。今後も地域に開かれた大学として、島根大学の魅力を伝えていきたいと思っています。



TOPICS

6

コロナ危機下でも積極的な国際交流を 海外協定校とのオンライン交流会を開催

5月5日(火)、海外協定校との学生同士の交流を目的として、コチ理工大学(インド)で日本語を学ぶ学生とのオンライン交流会を開催しました。交流会では、まず日本の昔話を日本語で朗読し、内容を紹介した上で、それをもとに双方の文化・習慣を学び、違いについて理解を深めました。海外に行くことができない状況の中で、今後このような手法で積極的に国際交流を進めたいと考えています。

TOPICS

5

カラーゲン人工皮膚を用いた紫外線暴露研究 「科学技術功労賞」を受賞



人間科学部の高橋哲也教授が、公益財団法人スガウエザリング技術振興財団より、第38回の財団表彰において「科学技術功労賞」を受賞しました。研究の名称は、『カラーゲン人工皮膚を用いた紫外線暴露研究』で、この成果はUVカット機能を持つスポーツウェア、介護服、日焼け止めクリームの開発にも生かせるそうです。11月には、大阪国際会議場にて受賞講演が予定されています。

読者の声 Voice

広報しまだい
vol.44に
寄せられた声
をお届けします。

学生の部活や生活等を
もっと紹介してほしいです。

(奈良県奈良市・70代男性)

毎号活躍する島大生や
若者に元気をいただいています。

(島根県隠岐郡・70代男性)

旧制松江高等学校で教鞭をとった偉人 カルシュ博士紹介Webサイトを公開



フリッツ・カルシュ博士
(Dr. Fritz Karsch) 1893～1971

大正14(1925)

年から14年間にわたって、旧制松江高等学校(島根大学の前身校)でドイツ語の教鞭をとり、多くの人材を育てたフリッツ・カルシュ

博士を紹介するWebサイトが公開されました。このWebサイトは、カルシュ博士の研究と紹介を長年にわたって続けてこられた東京医科歯科大学名誉教授 若松秀俊先生(カルシュ博士顕彰会代表)が作成されたものです。ぜひご覧ください。



「歴史の狭間に埋もれた教育界の偉人・カルシュ博士」はこちら(<http://mechtild.web.fc2.com/>)からご確認ください。QRコードからご覧いただけます。

島根大学の最新ニュースを発信！ 島根大学公式Twitter運用開始



本学の教育・研究・医療及び社会貢献活動並びに大学運営に関する情報を広く発信することで、本学への理解を深め、本学への関心を高めることを目的として、島根大学公式Twitterを設置し、運用を開始しました。ぜひフォローいただき、ご活用下さい。

島根大学公式Twitterはこちら
(https://twitter.com/Shimane_Univ1)
からご確認ください。
QRコードからご覧いただけます。



斐伊川のアユに関する初めての書籍 研究成果を無料出版



生物資源科学部の吉岡秀和助教が主導して

きた「斐伊川のアユ」に関する研究成果の一端が、このたび「斐伊川のアユと環境」2015年から2020年の研究成果より、無料で電子書籍化されました。

より多くの方々に研究成果を還元するため、無料の書籍(ただしISBNは付与)となっており、斐伊川漁業協同組合のホームページから書籍pdfファイルをダウンロードすることができます。



書籍のpdfファイルはこちら
(<https://www.hiikawafish.jp/200300/ayutokankyo-2/>)からダウンロードできます。QRコードからご覧いただけます。

理系進路を選択した先輩女性からのメッセージ 「ロールモデル集vol.5」を発行



島根大学は、2019年度「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」の取組機関に選定され、県内の教育機関と連携し、山陰全域のダイバーシティ推進に取り組んでいます。この度、女子学生の皆さんの理系進路選択を促すため、理系進路を選択し、現在社会で活躍されている女性を紹介したロールモデル集を作成しました。女性の理系進路選択の魅力をお伝えし、進路選択の一助になれば幸いです。

ロールモデル集は島根大学ダイバーシティ推進室HPより(<https://diversity.shimane-u.ac.jp/publications/role-model/>)ご確認ください。QRコードからご覧いただけます。



しまだい's サークル

Shimadai's Circle

各キャンパスでそれぞれの特色を生かして活動する島大生。運動系や文化系はもちろん、大学を飛び出して活動する団体もあり、活躍の幅は様々です。そんな各団体について、実際の活動内容を交えて紹介します。

松江キャンパス

バドミントン部



1.現在、男子15名、女子6名で活動。毎月月末に各自のバドミントンノートを集め、部員の意見を反映してメニュー作りをしています。2. 5月の中四国学生バドミントンリーグ戦をはじめ、年間を通じて様々な中四国・西日本の大会に出場。個人や団体で複数入賞を果たしています。

意見の共有と各自の工夫で練習の質を高める

個性豊かなメンバーが揃うバドミントン部。部活は週6回、基礎練習は全員で行い、技術が必要なパターン練習は個々のレベルで分かれて取り組みます。練習メニューを作っている井上主将は「日々の練習をただこなすだけではなく、部員それぞれが各自の課題を持って自分で考えて工夫することで、練習の質を高める努力をしています」と話します。そのために、部員間の意見の共有やコミュニケーションを重視し、練習や試合後には先輩や対戦相手にアドバイスをもらう時間を作っているそうです。個々の熱心さが、各種大会での入賞や、部全体のモチベーション維持にも役立っているようです。



支援の輪を広げて多くの人を笑顔に

障がいを持つ子どもの居場所作りを目的に誕生した「医大WISH」。月1回市内のコミュニティセンターで料理や工作などを行っています。代表の梅木さんは「とにかく楽しくて、いつも笑顔が溢れています」と、サークルの魅力を語ります。子どもたちにどうすれば楽しんでもらえるかを考え、時には他の部員の動きを見て学ぶなど、自身の成長も実感できるといいます。「今後は、活動を知ってもらうのはもちろんですが、ゆくゆくは障がいがある子だけに限らず、様々な人を対象とした支援の輪が広がっていけたら」。笑顔溢れる支援の輪の中の1団体になれるよう、精力的な活動が続きます。



出雲キャンパス

医大WISH

～出雲の学生ができること～



1.部員は34名。現在はコロナの影響で対面での活動ができないため、オンラインで読み聞かせやお話をしたり、手紙を送ったりしているそうです。2.1回の活動は3時間程度。思いっきり体を動かしたい時は、体育館や公園で遊ぶことも。

島根大学支援基金より

島根大学支援基金では、皆さまからいただいたご寄附を地域や世界で活躍する人材育成のために活用させていただいております。何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



新型コロナウイルス感染症に係る緊急学生一時金への皆様からのご支援に心よりお礼申し上げます。

新型コロナウイルスの影響で生活に困窮している島大生を緊急支援する「新型コロナウイルス感染症に係る緊急学生一時金」については、4月27日の募金開始から6月30日の募金終了までに、地域・企業・団体・卒業生など多くの皆様から、903件、約3,738万円のあたたかいご寄附をいただきました。本一時金(1人1回3万円)については、6月30日までに441名の学生に支給しており、今後も8月まで毎月(合計4回)支給予定としております。本学は今後も、「地域に根ざし、地域社会から世界に発信する個性輝く大学」として、県内をはじめ広く国内外で活躍できる人材を養成してまいります。

支援を受けた学生からの感謝の声(一部抜粋)

この度の一時金の給付は、非常に多くの方のご好意により実現したことであり、皆さまの支えがあって私たちが学業に励むことができていることを再確認することができました。今後もこのご恩を忘れることなく学業に励み、将来、私も困っている人々を助けられるような人になりたいと思いました。



支援を受けた学生から多くの感謝の声があがっており、詳細はHPに掲載しております。

支援基金についての詳細は支援基金HPをご覧ください。支援基金パンフレットをご請求ください。支援基金へご支援いただける場合は、支援基金HPから手続きいただくか、支援基金パンフレットによりお願いいたします。なお、パンフレットはお電話でのご請求も承っております。



TEL 0852-32-6015
https://www.fund.shimane-u.ac.jp/

支援基金HP

島根大学支援基金 寄附者一覧

島根大学支援基金は、皆さまからのご寄附を学生支援等に活用させていただく仕組みです。パンフレットは下記ホームページにも掲載しておりますが、郵送もいたしますので、お問い合わせください。

ご協力ありがとうございました。 ※令和2年2月16日～令和2年5月15日までに年度内累計額5千円以上のご寄附をいただいた皆さま(五十音順・敬称略)

冠寄附

島根大学教育学部音楽教育研究室同窓会
教育学部音楽教育研究室同窓会 音楽教育振興基金(教育学部音楽科教育専攻の教育活動支援)

法人等からのご寄附

出雲造機株式会社 株式会社 ミック 株式会社 中筋組 まるなか建設株式会社

個人からのご寄附

円能寺真一	大岩真二	青島真人	芦田新典	安齋有紀	市原正樹	伊藤恵一	伊藤真一	居原田洋子	入江文子	江口博晴	倉下和宏
木島庸貴	木多徳行	岡田光弘	岡野博光	奥井彰二	長田 仁	鬼形和道	片岡珠子	神谷年洋	亀弘章子	川上玲於	川西有里子
杉浦 健	鈴宮淳司	吉川通彦	木村 猛	木村智巳	河野美江	小谷美保	小林秀悟	境 英俊	坂田正昭	佐々木一	庄司 凡
成田 健	西村英泰	千家充伸	田部 恵	谷沢実佐子	塚原出帆	徳田浩一	富永ひさ子	豊田まゆみ	長井敦司	中村正人	名取瑞樹
藤尾和憲	藤尾めぐみ	農守浩治	萩瀬淨信	橋本雄二	瀧田 太	林田純太郎	東 正博	引田拓史	平川正人	廣瀬昌博	福本卓夫
		藤田 舜	増原清子	三上佳邦	棟石 均	八木和保	山本節子	横井弘善	吉見 顕	米田由香里	渡部恭也

「新型コロナウイルス感染症に係る緊急学生一時金」へご寄附をいただいた皆さま

法人等からのご寄附

大田JOいんつゝ 株式会社柳館 TSKグループ JR米子支社有志(島大卒ほか)

個人からのご寄附

川原 晃	吉川 進	青砥治朗	朝比奈くみ子	荒木 聡	荒木智江	荒藤 浩	伊藤嘉彦	岩倉禎尚	大迫則美	大島朗伸	尾崎浩一
田後伸実	谷出美和子	雲島真司	幸増千世	後藤元興	小林邦雄	佐川裕貴	塩見邦彦	水津絹枝	菅田英武	千家充伸	高橋雅子
原田一弘	原田直樹	内藤美智子	永島稜威夫・京子	永島稜威夫・京子	中田智美	七海由美子	野津和夫	農守浩治	長谷川博史	服部泰直	花田真也
山口清子	山口信夫	原田陽子	福田洋二	藤井 俊	松崎 貴	松本隆宏	三原悠聖	村瀬俊樹	森山克彦	門城祐司	谷野 章
		八幡弘子	吉松純昭								

お問い合わせ/ TEL 0852-32-6015(総務課 支援基金担当) https://www.fund.shimane-u.ac.jp/

※ご寄附をいただいた皆さまの中で、「HP等への掲載を希望しない」とされた方は、掲載していません。

編集後記

春になり新生活が始まるというところで見舞われた新型コロナウイルス感染症。緊急事態宣言も発出され、これまでの生活様式も見直しを余儀なくされました。大学教育もオンライン授業となり、私自身も在宅勤務を行うなど、社会構造の大きな変化を実感しました。

今号の「広報しまだい」も大きな影響を受け、1か月遅れでの発行となりました。取材もオンラインを活用するなど、新たなスタイルを模索しながら、試行錯誤しながらの制作となりました。ウィズコロナ時代を迎え、社会全体で新たな価値観が生まれ、取り組みも進んでいます。今後、本学における新しい取り組みも紹介していきたいと考えていますので、よろしくお願いいたします。

投稿のお願い

「広報しまだい」は、島根大学と地域の方々との相互理解を大きな目的としています。島根大学から地域に情報を発信してほしいこと、地域の方々からの島根大学に関する話題、島根大学に対する要望、その他ご意見、ご質問などをお気軽にお寄せください。ご投稿お待ちしております。

投稿先

〒690-8504
松江市西川津町1060
島根大学 広報戦略室
TEL.0852-32-6603
FAX.0852-32-6630

E-mail gad-koho@office.shimane-u.ac.jp
HP https://www.shimane-u.ac.jp



こちらからもアクセスできます

PRESENT

ご意見をいただいた皆さまの中から抽選で10名様に、島大農場で収穫・加工した「ブルーベリージャム(1瓶)」をプレゼントします。
※当選者のお知らせは発送をもって代えさせていただきます。
※応募締切/令和2年9月4日(金)必着



人と木を結ぶ
木造住宅の建築に欠かせない
合板の製造で、
国内シェア約30%を持っています。

NISSHIN
日新ホールディングス 株式会社
〒690-0887 島根県松江市殿町 383 山陰中央ビル 4F
TEL 0852-33-7830
NISSHIN GROUP WEBSITE
https://www.nisshin-gr.jp

松江・浜田・境港を中心に
日本一のメーカーをめざしています。

応援します、この街の元氣。
大和証券
Daiwa Securities
松江支店 電話 0852-27-7151
〒690-0003 松江市朝日町480の8
(SKYビル)

三光グループ
SANKO GROUP
山陰から全国へ
三光グループ 鳥取県境港市昭和町5番17 TEL0859-46-0321

～よりよい環境づくりを目指して～
株式会社 **コスモ建設コンサルタント**
土木設計・測量・地質調査・補償コンサルタント
後世に残す 素晴らしい地球に もっと出来る事がある
100年先に残す仕事を残す企業を目指して
〒699-0502 島根県出雲市斐川町莊原 2226-1
0853-72-1171 http://cosmoc.jp

NSK
日本システム開発
〒690-0003
松江市朝日町480番地8
松江SKYビル3F
TEL:0852-28-7175
https://www.nskint.co.jp/
多彩な業務で
エンジニアリングを
極めよう！
こちらからもアクセスできます

一歩したへ、未来へ
地域創造企業
私達は、ものづくり支援で、未来の扉を開く
あなたのベストパートナーとして一緒に輝きます。
http://www.showa00.co.jp/
建設コンサルタント・補償コンサルタント・測量・地盤調査・地盤改良工事
株式会社 **昭和測量設計事務所**
あしたへ 未来へ
求人のお問い合わせは 営業エリア：島根、広島、山口、鳥取、岡山
【益田本社】島根県益田市高津四丁目14番6号 【浜田事務所】島根県浜田市治和町ハ32-11
TEL (0856) 23-6728 FAX 23-6573 【営業所】松江・川本

荒れた森林を元気にしよう！
私たちは森林保全の輪を広げる活動を展開しています。
山陰合同銀行

スッキリとした味わいで料理との相性も抜群!!
島根大学の芋焼酎 **神在の里**
生物資源科学部神西砂丘農場で栽培された
サツマイモから誕生した「芋焼酎」
●神在(かみあり)の里(720m)は化粧箱に入った2本セットもあります。
■神在の里の取り扱いお問い合わせは
島根大学生協同組合
〒690-8504 島根県松江市西川津町1060 Tel0852-32-6242
https://www.shimadai.coop/

WE LOVE SUN-IN!
タウン情報 求人情報 ポスティング WEB etc.
楽しい街づくり
に貢献します
webはコチラ!
株式会社メリット 松江事務所
TEL.0852-23-2230
本社 島根県松江市古志原5-13-7 設立/1991年3月 ■採用支援サービス・タウン情報誌の発行 ■求人情報サイト運営 ■広告代理業 他

広告募集
広報しまだいは、企業・団体様等からの
広告を募集します。
島根大学企画広報課
TEL : 0852-32-6603
gad-koho@office.shimane-u.ac.jp

島根大学医学部附属病院広報誌
しろうさぎ
患者さん向けの
“役に立つ”情報満載!
WEB上でも読めます。詳しくはこちら▶
年4回発行

島根大学でひらく、
君の未来

SHIMANE UNIVERSITY
島根大学

WEB

OPEN

ウェブオープンキャンパス

CAMPUS

≡2020≡



松江キャンパス

MATSUE CAMPUS

法文学部 / 教育学部 / 人間科学部 /
総合理工学部 / 生物資源科学部

島根大学教育・学生支援機構
大学教育センター（アドミッション担当）

〒690-8504 島根県松江市西川津町1060

TEL 0852-32-9758



CHECK IT!



出雲キャンパス

IZUMO CAMPUS

医学部医学科 / 医学部看護学科

島根大学医学部学務課入試担当

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1

TEL 0853-20-2087

詳細については 島根大学HP > 入試情報 > オープンキャンパス

https://www.shimane-u.ac.jp/nyushi/explanation/open_campus/